

○ 3 番（山口裕子君）〔登壇〕

通告に従い、一般質問をさせていただきます。

私は母親として毎日子供たちのいじめ、虐待による報道を聞き、本当に何とか子供たちが元気にあるようにというふうに、そういうことを毎日考えております。今回はそういうことを通して質問していきたいと思います。私自身も親として24歳から13歳の4人の子供の子育て中でありまして。本当にここ10数年の子育ての社会環境がよくなることはなく、次から次にと問題が発生してっております。いろいろな形でサービスは充実してきていると思いますが、上の子供のころから考えるとサービスは本当驚くように整ってきております。しかし、子育て支援のサービスとは反対に子供たちを取り巻く事件は後を絶ちません。どこに問題があるのかということをやいよいよ私たち大人がしっかりと取り組まなければいけない事態に來ていると思っております。そういうことを含めて今回は子供の育つ環境ということを中心に質問していきたいと思っております。

1 番目に教育問題ですが、その中の1 番、学校現場におけるいじめ対策について、質問したいと思います。

佐賀県教育委員会が10月、県内の小・中・高校生に対していじめの状況を緊急調査した結果、本年度はいじめの件数が11月下旬で200件を超えていることが報告されました。そういうことを含めて武雄市ではどういう状況であるか、お尋ねしたいと思います。

○ 議長（杉原豊喜君）

庭木教育長

○ 庭木教育長〔登壇〕

いじめについては、議員の皆さん方も毎日毎日心を痛められることだろうと思っております。

いじめはまさに人権そのものの問題であります。私たちの武雄市におきまして、県の教育委員会に報告をいたしました11月末までのいじめ件数は7 件であります。

○ 議長（杉原豊喜君）

3 番山口裕子議員

○ 3 番（山口裕子君）〔登壇〕

7 件ということですが、先日、山内中学校のことが新聞に載っておりました。生徒会が自主的に全校生徒を対象にしたアンケートをもとに、いじめの実態報告や人権作文などを発表し、学校からいじめをなくす、いじめ追放宣言の人権集会を開いたということです。その会は大変に充実した会であったようです。

今7 件ということだったのですが、アンケートの結果、やはり63%のいじめがあっているという結果が出ておりました。その結果も校長先生が真摯に受けとめて、生徒の心を一つにしていきたいというふうに話されており、前向きな答えに対して本当にうれしく思いました。

その7 件というのが多いとか少ないじゃなくて、本当にそういうことで子供たちが心を痛

めていたり、毎日学校に行くのをつらがっているということを受けとめるとともに、武雄市は教育委員会として、今後その対策として防止策、いじめの防止としてどのような考え、対策を練っておられるか、お聞きしたいと思います。具体的に今やっておられることとか、実際の事例といいますか、そういうことを聞かせていただけたらなというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

庭木教育長

○庭木教育長〔登壇〕

先ほど7件と申しましたものは、県が示しました基準というもののにのっとって各学校から報告が上がってきたものでございます。しかし、皆様御承知のとおり、毎日毎日の子供たちの生活の中ではお友達とのちょっとしたトラブル、あるいは言い合い、あるいはバッシング、こういうふうなものは日常あっているわけでございます。ですから、子供たちの指導におきましては、やはり教職員そのものが、そのようなものがあることによって子供たちの気持ちが非常に痛手を受けている、このことをベースに置きながら学校経営をし、あるいは学級経営をしていくと、こういうことが大事でありますから、よろしく御指導をお願いしたいということで校長会等でお話をさせてもらっております。私たち大人でも言えるかもわかりませんが、違いを認める、こういう集団をお互いにつくっていく、これが今一番子供たちの生活の中で指導をしていかなければならないんじゃないかと、こういうふうに思っております。

そのためにも、毎日毎日の学校の実践の中でやはり教職員そのものが子供たちと接する時間をいかに多くとるか。そのためには教育行政として、現場のあり方等について事務的な仕事、文書作成、こういうふうなものもなるべく少なくするような、そういう手だてもこれから一層努力をしていかなきゃならない。また、現場におきましては、子供たちの日常生活をとにかく観察をして、そして教職員の方から声をかけるとか、あるいはこれまでどおりやっておりましたように、校内の問題行動等の連絡会を密にやっていくとか、あるいは地域の皆さん方、特に保護者の皆様方からのいろいろな御助言等を承りながら、客観的な目線で事象に立ち向かっていく。そして、もしそこにいじめ等の要因が想定されるならば、あるいはそれがいじめに発達するような要因があるならば、やはり見届け指導というものをしていかなければならない。ややもすると一過性の指導で、はい、それで終わりというように陥りがちなんですが、やはりこのいじめ問題につきましては、見届けをする、継続的な接触をする、これが大原則だろうと思います。

また、民生委員の皆さん、あるいは主任児童委員の皆さん方のお骨折りも大変今いただいております。ありがたく思っております。スクールアドバイザーやスクールカウンセラー、こういう専門の皆さん方の学校訪問も行わせてもらっておりますが、やはり一番大事なのは子供たちが毎日毎日接している担任の人的な接触の時間をふやすこと、そういうことを通

して頑張っていかなきゃならないと思います。

また今回、市長の方で自分の言葉で子供たちと対話をしたいと。そして、思いやり、あるいは勇気、こういうふうなものを非常に大事にしたいというようなことを承りましたものですから、教育委員会としても、今回、忙しい中で時間をつくっていただく中で学校訪問をさせていただくことにしております。

○議長（杉原豊喜君）

3 番山口裕子議員

○3 番（山口裕子君）〔登壇〕

いじめは今始まったことでもなく、以前からそういう問題も学校の中ではあることだったと思うんです。しかし、いじめの内容が今許されないような行動とか、いきなり問題が大きくなっているような気がします。でも、学校としては今答弁にあったように、本当に子供たちのことを思って、先生方も一生懸命していただいていると思っております。しかし、どうしてそういうことが起こるかというふうに考えたときに、いろいろマスコミなどでも学校現場での教師の指導力不足とか、また、それ以上に私が思うのは、やはり自分勝手な親というか、子育ての力がなくなってきているというか、自分の子をよく見ていないというか、こんなことがあっているなんて知らなかったという実態はあり得ないと思うんですね。皆さん子育てをしていて何かしら子供はちゃんと信号を出しますね。いきなり本当に追いやられるような事態にはならないと思うんですね。

そういう中、今いろんな手だてを打ってしていただいています、一番大切なのはやはりその保護者の方と先生、そして地域、本人も含めてですが、そういうのを前向きに真剣に解決していくという形で話し合いの場が学校としては持ってあられるのかなというのを思うのですが、やはりそこに親御さんが真剣に入ってもらえないと、学校の方がスクールアドバイザーだとかいろんなサービスをして、なかなか減らないというか、解決にならないところがそこにあるんじゃないかなというふうにも思いますが、地域も十分していただいています、子供を含めてですね、そういう話し合いとかが三者寄ってなされているのかなというふうに思いますが、ちょっと答弁をお願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

庭木教育長

○庭木教育長〔登壇〕

いじめ問題、あるいは子供の悩み相談、こういうものがやや難しい段階になった事例を反省してみますと、学校、担任、保護者、この土俵が共有化という視点で弱かった、これは私ははっきりと認めなければならないと思います。情報の共有化がきちんとお互いにできておれば、そこに値打ちづけという世界がつくりやすうございますので、やはりこれからは同じ情報を保護者、学校が大事にしていくと。そして、子供にとってどういう支援をしていく方

が生き方にプラスになるかということしていくことが大事だと思いますので、これからもそういう視点で現場の皆さん方と力を合わせ、保護者の皆さん方のお力も受けながら頑張っていきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

学校、担任、保護者の共有というか、そういうことを言われましたが、まず親だと思うんですね。まず親が自分の子供の変化に気づいて学校の先生なりに一生懸命投げかけることが始まっていれば、究極、子供たちはすごく傷ついて大変な事態に陥ることはないというふうに私も思っております。また、大人たちがそういうことがあっても見て見ぬふりをするという形が本当に一番いけないことだと思います。それがやはり子供たちの人間関係にも反映しているんじゃないかなというふうに思われます。子供は本気で大人が向き合ってくれていれば、やっぱり自分のことを大事にしてくれているんだという安心感もあると思うし、それがなかなか自分でいじめを解決できなくても、だれかがわかってくれているという形で少し心の方も楽になっていくと思います。だから、子供たちは本当にそういう大人の姿に期待しているというか、そういう反応を待っているんじゃないかなというふうにも思われます。

そんな中、今、教育長が言われましたように、市長がみずから子供たちと語りたいというふうに、時間をとるということをおっしゃっております。これは本当に私はうれしく思いました。やはり大人がそれくらい真剣にですね、市長も本当忙しい中、いろんなお仕事がある中、子供たちと向かい合おうということです。それを本当に大事にしなければ、子供たちの中で、またこれはだれかがこう言ったからだろうとか、変な言葉ですが、すぐシカトが始まったりとか、そういう状況もあるというふうにも伝えられておりますので、このチャンスをですね、市長は本当に大事に子供たちに向かっていただきたいなというふうに思っております。その効果も期待したいと思っておりますので、市長の思いをお聞かせいただきたいなと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私は、このように考えております。今まで教育といえ、ともすれば学校任せであったりとか、あるいは親任せであったりとか、究極言えば、もう子供たちの問題だというふうになっていたと思います。

私は、明治以来、日本の教育のすばらしかったところは、いろんな人たちがいろんな視線で子供たちの教育を支え合っていたというふうに思っています。それを何とか復元をしたい

というふうに考えております。そういう意味で、私がみずから教育の現場に飛び込むということは、実を言うと異論、反論もありました。政治の介入ではないかとか、さまざまなパフォーマンスではないかとか、いろいろありました。しかし、私はそこであるメッセージを送りたいというふうに考えております。それはつながっているということです。大人が、しかも、市を代表する人間が一人一人の子供たちとつながっているんだよと。これはいじめる方、いじめられる方、双方であります。先ほどの答弁に戻りますけれども、そういうことというのは昔からあったことと思うとですよ。だから、それを分断化された今時代において、デジタル化された時代において、きちんとアナログのベースでつながっているんだぞというこのメッセージを送って、私はいろんな意味での応援にさせていただければというふうに思っております。

もとより、議員がおっしゃるように、これですべてが解決するとは到底思いません。しかし、何らかまた考えるきっかけ、そして、これをどういうふうにまた持っていくか、これについては議員各位のまたアドバイスを広く賜ればありがたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3 番山口裕子議員

○3 番（山口裕子君）〔登壇〕

本当にありがたいことだと私は思っております。

そしてまた、今までにこういう問題も、本当に今始まったことではなく、県の教育委員会もいろんなリーフレットを出したりとか投げかけはあったと思うんですね。そして、今回も早急にいじめを考えるパンフレットが12月1日に配布されるようになっております。これが本当に一時しのぎというか、用済ませ的な形にならないように、これがいかに家庭、子供たちに役に立つものとして学校側も投げかけてほしいなというふうに思っております。

次に、2 番目に子供のことで、子ども部についてお尋ねいたします。

自分も自分の子育てをしながら20数年子育て支援のいろんなグループの活動もしてきましたが、本当に今が一番子育てにとってやりづらいというか、子育てしにくい時代に来ていると思うんですが、それに応じて市長も子育てサークルの方との語る会において、市としても子ども部という形で対応したいということをお話しされました。子ども部というのが、県内でも今まで子ども課を設けた例はありますが、部は初めてということですよというふうにも載ってありました。私としてもどのような形で体制というか、役割というか、形になるか全く見えません。わかりませんし、あと真剣に子育てサークルの方々が市長と語って、こういうものができると投げかけられても、自分たちの問題解決のどこら辺になっていくのかもちょっとわからないというところもありますので、そういうことを含めてこの子ども部というところの役割をお聞かせ願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○ 樋渡市長〔登壇〕

子ども部に関しては、既に私の公約でこども課ということで入れておいて、その延長線だというふうに思っております。これは課レベルではやっぱりちょっと限界があっですね。それで、私は先般の子育てサークルのぽっかぽかで子ども部をつくりたいというふうに申し上げた次第であります。具体的な子ども部のあり方は、3月に議員各位あるいは市民の皆さんたちに御提示ができて、それに基づいて条例改正をし、4月の施行に向けてなっていくというふうに考えておりますけれども、今のところ、子ども部の機能は3点を考えております。

一つは、生まれてくる前からもう子育ては始まっているものと思います。だから、そういう段階、段階に応じて、生まれてくる前、乳幼児、小学校、中学校と、そのステージに応じて、今、窓口がばらばらにあるわけですね。教育委員会に行ったりとか、福祉部に行ったりとか、福祉部の中でもいろんな課が分かれています。そういう意味で窓口の一元化を図りたい。だから、何か相談事、あるいは迷い事があったら、ここの子ども部の何とか課に来てくださいと、窓口に来てくださいと、そういう意味での、これは特に親御さんですね、先ほど議員がおっしゃったように、そこの相談の窓口で、できれば窓口の一元化を考えております。

2点目です。食育課です。私は、実は食育課は企画の中に置こうと思いついたわけですね。しかし、今、服部幸應先生等々とお話すると、子供は朝食ば食べてきよらん、正確な朝食を半分以上が食べてきよらんとか、あるいは食べてきよっても恐ろしか中身になりよごたっということで、これは今、庁内の幹事会から私の方に実は内々意見が来ていますけれども、庁内から子ども部に市長、食育課ば置かんですかと、そういう前向きな意見があって、私はそれで方針変更を今しております。そういう意味で食育課を子ども部に設置をして、それを通じて子供さん、あるいは保護者の皆さん、特に保護者の皆さんたちの意識が変わらんぎだめですね。だから、そういう意味で食育課を子ども部に設置をしたいというふうに思っております。

3点目です。子育ての総合支援センターの機能をつくりたい。そのバックアップについて、この子ども部が当たるというふうに考えております。それと伴って、私はいろいろ聞きます。市長は教育委員会の機能も子ども部に置くとですかと、いや、そういったことは考えておりません。私は教育委員会を非常に信頼しております。そういう意味で、ただ、教育委員会、あるいは学校のサポートを異なる行政的な観点からできないかということで、一つのサポートの位置づけにしたい、このように考えております。

それとともに、武雄の問題点です。私、こがん子育てのサークルがいっぱいあるとは思わんやったですね。ぽっかぽかを中心として子ども劇場であったりとか、いろんなサークルがある。いろんな人と話をすると、共通の悩みがあります。入ってくんされんて、しかも情報ば知らん。私はここにまず保護者の皆さん、あるいは子供たちと一緒に入ってもらえるよう

な仕掛け、手だてを子ども部が中心となってやっていって、そういう子育てサークルとうまい形の連携をとってほしいというふうに考えております。

そういう意味で、子ども部も名前のとおり、いろんな試行錯誤をしながら成長していくものだというふうに思っておりますけれども、最初の取っかかりとしては以上申し上げたところがあればいいなというふうに考えておりますし、今、庁内行政改革幹事会であったりとか、関係各課で物すごく精力的に議論をしてもらっております。そういう意味で、私はまた違う機会で、もう少し私が申し上げたことの具体的な話はその場でさせていただければありがたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3 番山口裕子議員

○3 番（山口裕子君）〔登壇〕

大体、役割的なことが見えてきたと思います。本当に今一番必要とされている部じゃないかというふうに思います。それは、今も市長がたくさんグループがあると言われました。それは本当にいいことで、生涯学習課が手助けでサポートして、いろんなサークルが卒業してグループをつくります。それは親とともに大人も子供も一緒に悩みを相談し合って、いい子育てをしていこうというグループがそれぞれにできていて、ぽっかぽかというのは、そういう武雄にあるグループを一つにして連携をしようという形でサークル、代表な形で支援サークルがあります、ぽっかぽかというのがですね。だから、その横の連携とかですね、悩んでいてここに届かない人たちがたくさんおられて、危険信号を出している親御さんを本当に目にするわけなんです。そういう人たちがどこか窓口的に自分の入りやすいところに入って、子育てが少しでも楽になるような形ですね。子育ては一人ではできないということ、本当に人と人がつながってかわり合っていていくところを、今、本当に親になったばかりのお母さんたちにこういう手だてがあると一番安心して子育てがなされていくんじゃないかというふうに思います。

後からその支援センターというところは私もまた質問の内容に上げておりますが、今言われたところとして、一番今の子育ての中で必要とされているところじゃないかというふうに思っています。

今、親の子育ての力というのが本当に落ちていると思うんです。学校の教育力も言われますが、あと親の子育ての力を引き出すというか、育てるところに力を注いでいってほしいなと思うんです。仕方のなか、あの親御さんはあだもんねとかいう形じゃなくて、何とかサポートしてつないでいってあげるという、つなぎ役ですね、そういう連携のできるような部であっていただきたいなというふうに思います。

それともう一つが、地域の力をつなげるような、やっぱり学校の教育力と親の子育ての力が増して地域の力が一つになっていけば、本当、子供たちの問題は解決していくんじゃない

かなというふうに使われます。それは始まってからいろんな形が整っていくことだと思いますが、子育てをしている人たちにとっては本当に期待したいところだと思いますので、よろしくをお願いいたします。

次に、2番目に子育て支援の中の児童虐待についてお尋ねいたします。

これも本当に心痛む問題が続いております。今言ったように、大人が子育てをどうしていったらいいのか、自分の子供とどう向かい合っていたらいいのかということが、こういう結果になっていっていると思うんですが、保護者としても大半がしつけの一環というふうに主張して、子供がなかなか保護されずにいたり、または遅れて発見されたりして防止されることなく悲惨な事件になっているようですが、武雄市としては、この相談状況及び虐待児と虐待者の保護の状況をお聞かせいただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

中原福祉保健部長

○中原福祉保健部長〔登壇〕

お答えいたします。

児童虐待についての取り組み状況でございますが、児童福祉法が改正になって、平成17年4月から児童虐待の第一義的窓口が市町村になりました。市の窓口としては福祉課子育て支援係内に家庭児童相談室を置き、相談員3名体制で当たっているところでございます。

虐待の予防、早期発見、早期対応のための関係機関、団体等から成る武雄市要保護児童対策協議会を設置いたしております。その協議会のもとに担当者から成る実務者会議、通告相談による事案に緊急、当面の対応を検討するケース会議を設置して取り組んでいるところでございます。

今年度における虐待の通告相談件数でございますが、3件の通告相談がっております。一つは性的虐待が1件、それから身体虐待が2件発生をして家庭児童相談室で各関係機関、それから民生委員さん、児童委員さんの協力を得ながら対応に当たっているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

そういう予防する体制は市としてもちゃんととれているようですが、なかなか私たちがそういう場に出くわしても、民生委員さんとかが一番身近なところだと思うんですが、こういう問題があっても市民の方はその民生委員さんが意外と遠い存在、自分のところから遠い存在であって、どの方かもわからないし、その方の電話番号とか、そういうのがちょっと個人情報保護法というのもありまして、いろんな連絡がとりにくい状態になっているんじゃないかということを心配されております。手だてとして一番早急にこういう事態が起こったとき

に、どうぞこうしてくださいというような、そういう市民にとって一番わかりやすい方法、行政としてはいろんな形で用意されておりますと言われますが、こういう事態があった、こういう目に遭ったというときには、こうしてくださいというような形の連絡の仕方とか、そういうのをちょっと一番お聞きしたかったんですが、答弁お願いできますか。

○議長（杉原豊喜君）

中原福祉保健部長

○中原福祉保健部長〔登壇〕

身近な相談の相手としては確かに民生委員さんがございます。民生委員さんがすべての地域の情報というのを把握されていない場合もございます。まず、そういう情報をどなたかが知られたら、まず、市役所の子育て支援係に相談をしていただきたいというふうに思います。その相談を受けた後、民生委員さん、あるいは学校、保育所、そういうところに連絡をとって実態等を調査し、そういう関係者の方々と解決策を検討して行って、それぞれの対応をいたしたいというふうにしているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

部長答弁に補足をしたいと思います。

4月以降、議会にお認めいただければ、子ども部にそういう機能、窓口をちゃんとつくりたいというふうに思っております。その上で、先ほど私も質問の中ではっと思いましたけれども、民生委員さんの存在がやっぱり離れておるかなというのは私も聞きながらそういうふうに思ったところでありますので、もう少し子ども部として民生委員さんの位置づけであったりとか、あるいは電話番号とか、そういったことをきちんと出していけるようにしたいというふうに思っております。

それで、もとより私は基本的には早期発見、早期対応が一番だというふうに思っておりますので、議員の皆さんたちも今まで以上にそのアンテナを高くしていただいて、すぐ報告をお願いしたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

本当にそう考えてみると、4月から子ども部というところが設置されるとわかりやすいなというふうに思います。子供の関係だったらそこに行けるんだなと、そこで聞いてもらえるんだなという形がはっきりしてくると思います。

あと虐待というところで、社会問題の少子化というところで、一番こころに原因があるんじゃないかなというのが思われるんですが、本当に今、保育園のサービスも充実してきて

おりまして、もうゼロ歳児、何カ月という子供たちから保育ができるようになっているようです。その保育のサービス、早朝保育、延長保育、もう至れり尽くせりのような気がします。が、実際そういうサービスを受けていると、私たちそのような保育をしてこなかったからですね、親として本当におむつも外れないうちにそうやって保育園の方に預けます。そうすると、保育園側は保育児の獲得もありますので、どうぞどうぞサービスは充実されておりますよと、安心してお仕事に行っていていいですよという形のサービスがありますが、これをよく考えてみると、本当にその必要な方もいらっしゃるんです。本当に経済的なこととか、いろいろな環境によって、それが本当にありがたいと思ってある保護者の方もいらっしゃるんですが、それが今少し状況が変わってきているんじゃないかなというふうに思っています。自分の子供をちゃんと子育てをすると、そういうところがますますそういう利用することによって責任が薄れていく、自分の子供を自分で育てるところがなくなってきた原因の一つではないかというふうに思われます。そのように早朝から延長保育していただいてすべて見ていただいたときに、連れて帰った数時間は、だれでも子育てしている方は何でも楽しいものではなく、子供というものは訴えてぎいぎい泣いたりとか、いろんな反応を出したりしますが、そういうたった数時間のこともいつもサービスにあやかっていると見られない親というかな、そういう形が育っているんじゃないかということも、やはり同じような保育をしている、子育てしている人たちからもそういう問題が上がっているように思いますので、やはり虐待を防ぐというところにどういう原因があるかということも見ていく必要があると思います。

あとは、社会状況としてひとり親という形がどんどんふえております。そこも再婚によってとか、義理の親によつての性的虐待とか、あといじめ的な虐待とかが起こってきておりますので、行政として、本当に望まれてサービスしているところがどうも違う方向に走っているんじゃないかということも、いま一度見詰めてもらって直していかないと、サービスを考えていかないといけないところにあるんじゃないかなというふうに思っておりますが、市長の答弁、あと福祉保健部長の答弁もいただきたいなと思います。

○議長（杉原豊喜君）

中原福祉保健部長

○中原福祉保健部長〔登壇〕

お答えいたします。

保護者の意識の問題に関する問いだったというふうに思います。

議員御指摘のとおり、母親のそういうふうな育て方がわからないとか、そういう御意見をお聞きします。また、それぞれの施設、あるいは相談を受けたところでは、やはり親の教育が必要だなというふうなことをおっしゃる場合が多々あります。そういう意味では子育ての指導も含めて親の指導、それから親の子供に対するしつけ、あるいは教育、そういう全般的

な指導をしていかなければならないというふうに思っています。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私も先ほどの中原部長と全く同感です。非常に我が意を得たりということで中原部長の答弁を支持したいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

サービスがそうやっていい方向に行っていないのがすべてではなく、このサービスを本当に必要としている人もいますが、虐待とかの何でそういう原因があるのかというところを見たときに、そういうことも今状況として生まれてきているんじゃないかというふうに思いますので、いま一度そういう見直しをしていただきたいなというふうに思います。保育園とか保母さんとかも大切な仕事をされているんですが、それに対しての親の意識とか、親が子育てをするんだというところの意識がすごく薄まってきておりまして、やはり何か問題が起こったときにはすぐに保育園とか保母さんとか行政側に問題があったりとかというような形になってきているように思います。いま一度、どこに子育てに対して一番気を使わなければいけないところかというところを見直して考えていくべきではないかというふうに思います。

それでは、続きまして、また子供のことで一番大切な問題になっているところでありますが、学童保育についてお尋ねいたします。

山内町はおかげをもちまして充実した施設で学童保育がされております。それも考えてみると、それが本当にいいのかわかりません。武雄市の方もあと11カ所の学校の中、あと3カ所が待ち望まれていると言われておりますが、今その8カ所で学童がされています。その学童の見直しの時期でもあると思うんですね。今いろんな形で、民間で学童保育をするという形とか、学童保育料の問題とか、学童に預かる子供たちの年齢ですね、今は1年生から3年生までですが、1年生から6年生までやってほしいとかという問題、あと時間的な問題、もっと延長してほしいとか、そういう学童保育のサービスのあり方とか、施設の充実とか、いろんな問題が上がっておりますが、それに対して今後、武雄市としてはどのように対応されていかれるのか、お尋ねしたいと思います。どのような計画があるのかというところも含めてお聞きしたいと思いますので、よろしくお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、今後の方針でありますけれども、先ほど議員からありましたように、市内全校区開設をしていきたいというふうに思っております。

その上で一番悩んでおるのは利用料を取るか取らないか。それはおやつ代も入りますけれども、今、庁内でも激論の最中であります。私もその日は取った方がよかなとか、その日は取らん方がよかなとかですね、非常にこれは物すごく考えております。他市の状況を見ると、おやつ代まで含めての利用料を取りよらんところは武雄市だけですね。これをもって子育ての支援と言える部分はあろうかと思えます。しかし、これがただだということで何でんかんでんですね、何というんですかね、負担なくしてできて、親御さんたちにこのありがたさがわかつとんされん人たちも結構おるですね。だから、そういう意味で私は一定の利用料は取るべきだというふうに考えております。ただ、悩んでおりますし、今、庁内で議論をしてもらっていますので、その議論の推移をもう少し見守りたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

3 番山口裕子議員

○3 番（山口裕子君）〔登壇〕

福祉保健部長の方からでもいいんですが、今のは利用料ということですが、あと対象年齢とか時間的なこととか、そういうのは計画されておられるのか、ちょっとお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

庁内での検討は、まずその利用料をどうするかということを今考えておって、利用料を取った場合のそのあて先ですね、これが果たして4年生から6年生、今やっております。これに振り向けた方が妥当かどうか、社会的ニーズがあるかどうか、これについては、ちょっと調査をもう少ししてみなきゃわからないかなというふうに思っております。

本音を言えば、利用料でもう全く赤字やっけんですね、それをやっぱり一般財源として確保したいというふうにありますけれども、4年生から6年生のニーズであったりとか、あるいは時間を延ばすといったことが、本当に市民の皆さんたちが求められているかどうかをもう少しちょっと検討の時間を与えていただければありがたいというふうに思っております。その上で山口裕子議員初め議員の皆さんたちに御相談をしたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3 番山口裕子議員

○3 番（山口裕子君）〔登壇〕

私も本当に帰られない子供たちのことを思うと充実させてあげるべきじゃないかとか、私たちの子育てのいろんな仲間とも話をします。しかし、指導員の方たちの話とかを聞いてみ

ますと、今市長もおっしゃいましたように、無料で見ていただいている、本当にこれが必要――最初この学童保育が始まったときは本当に助かって安心して仕事に行けるとか、経済的に大変な方が本当にありがとうございますという形で始まっていたと思うんですが、どうも今学童保育のあり方、必要性というのが変わってきていて任せっ放しというか、サービスをとにかく延長してくれとか、指導員の先生にもっとここまでを見てくれとか、そういう要求が余りにも大きくなっているような気がします。

利用料も私も本当に思うならば、せめて自分の子供は3年生ぐらいまでは帰ってくるのを待とうと思って、パートに出るのを抑えて経済的なことをやりくりしながら見ている方もいらっしゃるわけです。それと、両親にお願いしますと頭を下げないでいいようにこんな学童保育を利用すれば簡単なんです、やっぱり人の親のつながりとかそういうものを考えて、お父さんお母さんに帰ってきたらよろしくお願いしますというふうにして子供を見てもらって育てている方もいらっしゃいます。これが税金で賄われているところを考えまして、そして、今子育てのどこに問題があるのかとか、子育てができないとか、いろんな問題が出てきていますが、どこに原因があるのかとかを見ていくときに、ここの学童保育というところは一番子供たちがいろいろな表現を出しているところでもあります。やっぱり家に帰りたいんだけど、お母さんが、お父さんが仕方がなかというふうにたくさんのストレスをためた子が指導員の方におんぶにだっこだとか、いろんな形で寂しさを出しているところでもあります。そう考えると、本当に充実してあげないといけないなというふうにも思いますし、指導員の方が働きやすいような施設にしなければならないなというふうにも私は思っておりましたが、どうも何かその方向性が違ってきて、解決にはならない、このサービスを充実すればするほどに問題が起きているようなところがあるように思われます。

だから、ここのところを今から武雄市も本当に施設としては乏しい形で、もう少し最低限度の子供たちの帰るところとして整えてほしいなというふうに思いますが、その整え方も私はやはり子供たちは家庭、地域に帰るとというのが基本だと思うんですね。だから、私はこのサービスを今から整えられるならば公民館ですね、自分の地域の公民館でボランティアなり指導員の方にお仕事としてそこで働いてもらう形で、なるべく私は家庭、地域というところに子供たちを帰すことが一番ではないかというふうに思いますが、そういう考えのところで所見をいただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

全く同感であります。子育ては基本的には各地域がサポートをすべき、全く本当にこれは同感で、うれしゅうしてたまらんです。その上で、私は、ただこれは1個問題点があって、もし公民館に開講するということになったら、果たして均一な子育ての支援ができるかとい

ったこともあります。したがって、地域の皆さんたち、これは公民館長さんを初め区長さんたちもなるかもしれません。OBの皆さんたちが他世代交流も含めてきちんとサポートできるかどうか。それともう1点が、それに足りないところを行政がサポートをするというふうなことが果たしてできるかどうか。それともう一つが、ぽっかぽかの子育ての支援サークルの皆さんたちが積極的に公民館行政に入っていただきたいと。できますれば運営協議会にもメンバーになっていただくなど、そういう意味での時間はますます減ります。そういう意味で深い、本当の公民館運営に子育てサークルの人たちの皆さんたちが入らないと、器はつくっても魂入らずというふうになるというふうに思っております。

そういう意味で基本的な方向としては私も全く同感ですけれども、ちょっとハードルが高い。それについてはもう少し議論をし、そして、基本的にその方向に持っていけるように私も努力をしていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

親たちにとってよりは子供たちにとってどういうサービスがいいのかというのを真剣に考えていけないといけないというふうに思いますので、本当、ここはいろいろな意見を出し合って決めていくところではあると思います。

また、既に今学童保育はなされておりますが、指導員の方たちも一生懸命されております。30人、40人という子供たちを2人で見られて、いろんな問題を抱えた子供たちがいろいろその指導員の方たちに投げかけてきております。だけど、もどかしさがあるようです。やはり学校としては関係しないという立場のところの学童保育であります。それで、保護者の方たちもお仕事で見てもらっているという、そういうちょっと感謝に欠けるようなところもありまして、なかなかわかってほしいところが伝わらないで指導がなされているんじゃないかという問題点もあります。私が思うのは、やはり保護者とか指導員とか、そういう施設をお願いするときにルールとかマナーとか、預けるに当たってのそういう話し合いがなされているのかなというふうに思います。やはり指導員からの要望とか対応とか、そういうところに保護者の方を交えて話をされなければ、子供たちとしては一番寂しい存在であるんですね。だから、そこのところを考えていくときに、やはり行政側としては、保護者と指導員とか行政も入って話をしていかなければいけないんじゃないかというふうに思っておりますが、どうでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

中原福祉保健部長

○中原福祉保健部長〔登壇〕

お答えいたします。

保護者、それから指導員、市、三者の話し合いということでございますが、実際、学童保育を申し込みに来られるときは保護者と市の担当との協議、あるいは受け入れる条件とか、そういうことについてはお話をしています。また片一方、指導員と市との関係では仕事の内容、勤務時間、それから注意事項とか、そういうふうなものをお話しして当たっていただくようにいたしているわけですが、御指摘の三者一体となった協議というのが実際のところ不足していたという感じがいたします。今後そのような方向になるようにぜひ実施をしていきたいというふうに思っています。

○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

やはり必要とされている場でもありますので、本当に子供たちがそこで安心して安全に暮らせる場としてどういう形がいいのか、十分に話し合っていたきたいなというふうに思います。やはりこういうサービスが充実していけばなかなか子供と向かい合わないというか、向き合えない大人、親たちが育っているようなところもあるような気がします。というのは、実際に子供は本当に待っているのに毎回毎回時間延長になっても、6時と決まっていっても6時半になったりとか、本当に子供は待っているのに対応している指導者の方にありがとうございますと言葉もなかったりとか、そういう状況が余りにも多くなってくると、もう一度こういう保育サービスとかを考えるとではないかというふうに思っております。

最後になりますが、たびたび子育て支援センターということで出てきておりますが、本当にこういうふうには子育ての状況が変わってきておりますので、やはり大切だと思って、いろんなサークルの人が一生懸命活動しております。市長もありがたいことに子育て支援センターを北方の方に拠点としてつくりますという形でも打ち出されておりますが、旧山内町で考えてもこういう大切な場所がやっぱり身近なところにあるべきだというふうに私は思います。武雄市のサークルの方たちも常々願いを言っておられますが、やはり武雄市の近くに、公民館とかあいているところでいいということですので、ぜひ今必要とされている施設として早くそういう場をお願いしたいなというふうに思っておりますが、どういう状況にあるか教えていただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

子育て総合支援センターについては、庁内の議論の中、あるいはパブリックコメントに付した草案の中でも北方に置くということになっております。ただ、子育て総合支援センターの中身については、基本的にこういうふうな学童保育がいいであるとか、あるいはこういう子育てがいいとか、そういうふうな意味での総合センターの位置づけにしております。その

総合センターのどこどこに親御さんだったり子供たちが来るところをつくった方がいいか、場所によたら公民館かもしれません、場所によたら武雄市役所の中にそういったことが必要になるかもしれません。そういう意味で私はひとつ総合支援センター、これは子ども部と並列をさせます。その上でこの子育て総合支援センターのアドバイスに基づいて各町の公民館であったり、あるいはほかの空きスペースであったり、そういった体制を整えたいというふうに思っております。

もとより、北方に子育て総合支援センターをつくったからといって、それで終わりとは到底考えておりませんし、さきの答弁で私がしたように、公民館を今後は中軸、中心に据えていろんな展開をしていきたい。そういった意味で、非常に私が参考に思っているのが橘町であります。橘町は夏休みに1週間でしたか、完全に開放をして、そこに区長さんであったりとか、公民館長さんであったりとか、周りの皆さんたちが来て、竹とんぼの作り方を教えたり、何か一緒に遊んだりとか、あれは一つの非常に希有なありがたいモデルケースだと思っておりますので、そういう橘公民館方式――今、勝手に名づけましたけれども、そういったのが広がるようにしていきたいなというふうに考えております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

本当にありがたく思います。本当に10数年子供の育つ環境が変わっていく中、こういうのが必要だということで活動してきても、なかなかそういう声が届かなかったわけです。旧山内町でもそうですが、本当に子供が休みのときとか自分たちで行くというところの居場所がなかった。お母さんたちもそうです。お嫁に来たり、転勤でこの地に来たときに情報を自由にとる場所、交流ができる場所、その地元の人と相談をする場所というところがなくて、本当にこういうセンターがあつたらいいなというふうに待ち望まれておりました。しかし、今やっとできた旧山内町の土曜文庫でさえ、ああどうなるのだろうという不安をいっぱい抱えております。私は今さら新しい場所とは言いません。やはり空き庁舎とか、今ある公民館とか保健センター、そういうところに早くそういう居場所をぜひ確保していただきたいなというふうに思います。やはり子育てとか、いろんな人間関係にも多様なところがありまして、なかなか心を開いて、行政の中にとりか、いろんな大きな会にとりか行けないで悩んでいられる方もたくさんおられますので、そういう窓口としてぜひ望まれているところでありますので、早急な手だてをしていただきたいなというふうに思います。

本当にここ10数年、そういう活動をして一生懸命危険信号を出している親子、また子供たちをどうやって救つたらいいのだろうか、どうやってお手伝いしたらいいんだろうかというふうにやってきておりますので、そういうところを酌んでいただきたいなというふうに思い

ます。

旧山内町のことになりますが、やはり旧町の支所の使い方ですね、そこにも拠点となる場所が本当に欲しい。それは周辺部の活性にもなるし、少子化対策にもなると思うんです。それから、障害を持った自分で動ける子供さんとかも、自分のまちでそういう場があれば自分でみずから歩いて、町民とかいろんな人と交えたり、情報をとったり、本が読めたりとか、そして今市長が言われたように、やっぱり先輩たちの力とか知恵をかりるしかないわけですね、今子育て中の方たちは。孫育てとも言われますし、本当にそういう意味でボランティアとか、いろんな方々のかかわりによって今ちょっと崩れてしまった子育て環境を取り戻す意味でも地域全体が、市全体がそういうところに力を注いでいていただきたいなというふうに思っております。

なかなか、今まで10数年そういう活動をしてきてならなかったわけです。だから、早くこのところを改善されれば今のような問題も起こらなかったんじゃないか、子育てを不安に思う親も育たずに人とのつながりを持って隣近所、おばあちゃんとかの交流もできて育てることができたんじゃないかというふうに思っております。お隣さんとのおつき合いでさえできない若いお母さんたちが多くなってきているという現実を踏まえて、どこから手だてをしていったらいいのかということで、今回はいろんな意味で質問させていただきましたので、ぜひ早急な手だてをしていただきたいなと思っております。

これで私の一般質問を終わらせていただきます。